

森林整備手法に希少種への配慮の方針を / 白旗山の皆伐問題で小形香織市議 2025 年 3 月 3 日 予算特別委員会



市内清田区の白旗山都市環境林が 2022、23 年度の 2 か年で 12ha、24 年度で 17ha の皆伐が行われていることで、小形市議は、クマゲラなどの希少種への配慮を欠くことがないように環境調査等の強化を求めました。

市は皆伐に当たって、一部の木を残して鳥や虫の生息地を維持する保持林業を実施し、既存の天然林などは保全し配慮していると説明しましたが、対象となった白旗山の皆伐地域においては、市職員の目視にとどまり、野鳥の会などがおこなっているような、しっかりとした調査ではないということも認めました。

北海道森林管理局の『クマゲラ生息森林の取り扱い方針』では、概ね営巣木から 1,000m ぐらいの範囲というのは、主として採餌区域となるほか営巣候補地であることから、区域内の森林作業に当

たっては、「営巣木保護区域及び緩衝区域に準じてその他の区域においても営巣候補木及び採餌木の保存に務めると書いてある」と指摘。クマゲラは生態系の要石の位置にある種（キーストーン種）であることから、成長した守るべき樹木などの配慮があるはずで、今後の対処方針を持つ必要があると市の見解を求めました。

担当部長は、鳥や虫の生息地を維持する保持林業という手法も取り入れ、生態系への影響は配慮しているところだが営巣木は野鳥は 4 月～6 月に巣作りすることから皆伐はその時期を外す取り組みも考えたいと答弁しました。小形市議は、皆伐という整備手法は生物多様性を守る上で難点もあり、自罰

型伐林業も育成しながら皆伐を回避する整備への努力をもとめました。

大倉山ジャンプ台のデュアル化と樹木伐採 小形香織市議 2025 年 3 月 17 日 予算特別委員会

札幌市が進める大倉山ジャンプ台のデュアル化計画について、小形市議は樹木伐採や環境への影響をめぐる質疑を行いました。

小形市議は、大倉山にノーマルヒルを新設することで「今のラージヒルジャンプ台の北隣に併設するために樹木 1000 本を伐採」併設する点に懸念を示し、「スキージャンプの練習本番など日常使っている選手たちにも、このデュアル化による樹木の伐採や環境への影響などがあることを事前に伝えるべきだ」と求めました。

これに対し、担当の施設整備担当部長は「競技団体とは、大倉山および宮の森

ジャンプ競技場の改修内容とあわせて、併設化に伴う自然環境への影響についても説明し、適宜協議を行ってきた」と説明。さらに、「より効果的な環境保全対策を専門家等の意見を伺いながら検討し、適切に情報発信を行い、競技団体や選手、地域住民などの理解をより深めてまいりたい」と述べ、環境対策について、「環境調査の結果に基づき、専門家等へ意見を伺いながら、植物の移植や植樹等のより効果的な環境保全対策を検討していく」と答弁しました。

しかし、小形市議は、計画が雪印シャンツェのあった場所だけではなく、さらに隣の民有地 800 平方メートルを擁す

ることをあげ、「想定する伐採本数 1,000 本のうち、約 900 本が雪印シャンツェのあった場所で、約 100 本は新たな隣の天然林である民有地の樹木を伐採することになる」とし、対策を行うとしても環境負荷からは逃れられないと指摘。1972 年冬季五輪でスキーコースが造成された恵庭岳が今でも元に戻っていない点や、東京明治神宮外苑の再開発で樹木伐採が問題となった事例を挙げ、「競技の継続をうたって環境破壊をするスポーツ選手への発言を紹介し、敷地外の民有天然林の樹木は伐採しない計画への変更を求めました。